

矢祭子ども司書に認定された君たちへ

みなさんは、矢祭町が十五年も前に、全国のどの市町村よりも早く始めた子ども司書講座の第15期の受講を終え、今日、その資格の認定を受けたのですね。

しかも第15期からは、二年生から六年生までの全員が講座を受けて、卒業を迎える時期に、子ども司書の認定を受けるという制度に変わりました。矢祭小学校の卒業生は、全員が子ども司書の学びをした子どもたちになるのです。

それは、とても大きな意味を持ちます。

この講座を振り返ると、学びの日が今日を含めて12回もありましたね。

図書館は、本をどのように分類して並べ、どのように貸し出したり、読み聞かせをしたり、傷んだ本をどのように修理したりするのかといったことを学びましたね。読んだ本の感動したところとか、面白かったところなどをまとめて、友達にすすめる競争をするビブリオバトルにも挑戦しましたね。

ひとりで本を読んで楽しむだけでなく、たくさんの本の種類が多いことを知ったり、友達が本をどのように読んでいるのかを知ったりすると、本に対する関心が広く深くなります。

また、絵本を自分で作ってみると、絵本というものは、言葉の発達していない幼い子どもだけのための本ではなく、小学校の高学年の子どもにとっても、さらには大人にとっても心の深いところに響いてくるものを表現できるものなのだということに気づいたのではないのでしょうか。

もしみなさんが子ども司書の講座を受けることなく、小学校を卒業して中・高生になり、大人になってしまったら、このような本をめぐる大切な知識の獲得も経験もしないで、一生を過ごすことになってしまつてしまうでしょう。おさまりの学科だけでなく、このように幅広くいろいろな経験を重ねていくことは、みなさんのこれからの日々、これからの人生を、必ず豊かなものにするでしょう。

よく頑張りましたね。

子ども司書の認定、おめでとう！

令和六年二月十九日

ノンフィクション作家 柳田 邦男